

西淀川の交通・移動について
考えてみよう!

第2回



第1回 7月24日(土) 13:30~15:30

「お話&疑似体験! 視覚障害と高齢者の視点でまちをチェックしよう」

- あなたが住んでいる西淀川は、みんなにとって住みやすい町になっていますか?
- 今日は視覚障害と高齢者の視点からまちの移動環境について、考えてみましょう!
- 今日は視覚障害者の山本 美恵子さんから、西淀川区内の移動環境についてお話をうかがいます。
- 視覚障害者と高齢者の体験キットを使って、まちなかの不便さを体感します。

① このプロジェクトの経緯と目的

○このプロジェクトの経緯

あおぞら財団では、西淀川地区沿道環境に関する連絡会、西淀川交通まちづくり意見交換会・討論会などに関わり、西淀川区内の交通・移動環境に対する様々な提言を行ってきました。行政に対して提言を続けていくことは重要ですが、市民自らが提言した内容を実現化し、移動環境を少しでもよりよいものに変えていくという行動も重要です。このプロジェクトでは、市民が中心となって、交通・移動環境をよりよいものにしていく行動をおこすきっかけにしたいと考えています。

○プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、市民が主体となって、西淀川区内の交通や移動に関する情報を収集し、地域内の交通や移動の課題について話し合います。調査した情報は、マップや報告書としてまとめて、西淀川区民に広く公開します。

② プロジェクトの流れ

時期	内容
1回目 7月17日（土） 13:30～15:30	●お話&疑似体験！ 車いすの視点でまちをチェックしよう ・車いす利用者の方から西淀川区内の移動環境についてお話を聞きます。 ・実際に車いすを使って、まちなかの不便さをチェックします。
2回目 7月24日（土） 13:30～15:30	●お話&疑似体験！ 視覚障害と高齢者の視点でまちをチェックしよう ・視覚障害者の方から西淀川区内の移動環境についてお話を聞きます。 ・視覚障害者と高齢者の疑似体験装具を使って、まちの不便さをチェックします。
3回目 8月21日（土） 13:30～15:30	●話し合い：西淀川区の移動・外出について話し合おう ・西淀川区内の移動・外出について、自由に話し合います。 ・どういう情報があれば便利かを考えます。
4～7回目 9～12月	●調査：西淀川区内の移動・外出の現状について調べよう ・西淀川区内の公共交通機関、商業施設などの移動のしやすさについて調べます。
8～10回 1～3月	●話し合い：調べた内容の使い方について話し合おう ・調べた内容、話し合った内容をどのように活かしていくのかを話し合います。
3月	●調べた情報を整理し報告書としてまとめ、発信しよう ・移動・外出の情報を必要としている人に配布します。 ・大阪市などに提出し、外出・移動環境の改善に向けた検討を求めます。

② 本日の講師の紹介



山本 美恵子さん
大阪市西淀川区在住。
大阪市身体障害者相談員
社団法人大阪市視覚障害者福祉協会理事
NPO 法人ヒューマンライフサポート理事

山本さんは、4歳の時に急性緑内障で弱視になり、28歳で全盲になりました。1982年から盲導犬の貸与を受けて生活されています。現在のパートナーのブライディは2003年6月からの付き合いで、3頭目の盲導犬です。現在は、柏里小、姫里小、歌島小等の区内の小中学校、淀商業高等学校等において、人権教育の講演を行っています。また、ホームヘルパー2級、ガイドヘルパーの養成講座の講師もされています。

④ 本日の内容

13:30 (5分)	あいさつ
13:35 (45分)	視覚障害者と高齢者の疑似体験、視覚障害者の手引き (場所：大野川緑陰道路)
14:20 (10分)	休憩
14:30 (30分)	視覚障害者の山本美恵子さんからお話
15:00 (25分)	話し合い ※視覚障害、高齢者体験、山本さんのお話をふまえてみなさん で話し合います。 ※2班に分かれて20分間の話し合いをした後、5分間全体で話し 合いのまとめをします。
15:25 (5分)	アンケートに記入 来週以降の取り組みについて

⑤ 宿題



あなたが住んでいる周りや、ふだん行っているお店が
視覚障害者や高齢者にとって使いやすいか
チェックしましょう。

- ・ 視覚障害者や高齢者が使いやすい工夫がされている場所、お店
- ・ 視覚障害者や高齢者が使いにくい場所、お店

を探してみましよう。

参考資料：視覚障害に関して

■視覚障害とは

- ・視力障害：中心視力の障害
- ・視野障害：視線を固定して一時に見える範囲（視野）が制限される障害
- ・光覚障害：薄暗い所は見えなくなる、急に明るい所へ出たときに眩しくて見えない状態
- ・立体視機能障害：斜視や不同視眼で起こるもので立体感覚が欠如

- ・**視覚障害は多様で、状態が同じ人はいない**とされています。

■目の不自由な人の歩行時の情報取得方法

目が不自由な方は、様々な環境情報から判断して、位置を確認して行動を決定しています。

- ・聴覚的情報：車の音、足音などの音の方向
- ・触覚的情報：白杖や足底からの
- ・運動感覚的情報：路面の傾斜や段差など
- ・残された視力の活用（ロービジョン者の場合）
- ・その他の情報：風・太陽の方向、嗅覚的情報ほか
- ・目的地までのルートの地図を頭に描き、地図に基づき行動（メンタルマップ）
- ・ガイドヘルパー、盲導犬の利用

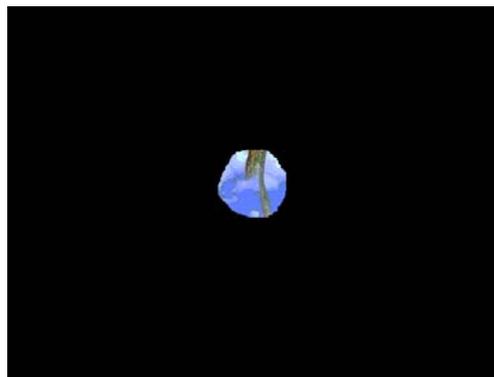
■ロービジョン

- ・視覚障害者がすべて全盲というわけではなく、視覚障害者の約 8 割はロービジョン者であり、残された視力を用いて生活しています。
- ・ロービジョンとは、視覚が健常者に比べて低下しているが視覚活用の可能性が残っている状態のことをいいます。

ロービジョンの見え方の例 1



晴眼者



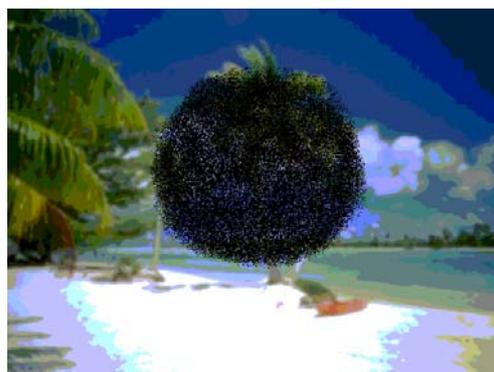
球心性視野狭窄

- ・全体的に見える範囲が狭まります。
- ・中心の視力が残っていれば視力自体はあるが、足下やすぐ横が見えません。

ロービジョンの見え方の例 2



晴眼者



暗点

- ・部分的に見えないところが出現します

ロービジョンの見え方の例 3



晴眼者



白濁など水晶体や角膜疾患

- ・光の乱反射でハレーションを起こしたような状態です。

■目が不自由な人の手引きの仕方

基本姿勢

- ・ 白杖を持っている人をガイドする場合は、杖と反対側にならび半歩前にでて肩か腕をつかんでもらってください。
- ・ 街中で目の不自由な人が困っている様子を見かけた時は急に腕をひっぱったり、白杖をつかんだりせず、一言声をかけましょう。



狭い場所での手引きのしかた

- ・ 案内する人は、手引きの腕を背中にまわして狭くなることを伝えて、自分の後ろへ目の不自由な人についてもらいましょう。



左右に曲がる時

- ・ 「ここ」「そこ」「もう少し」などの表現は用いずに、「左に曲がって 50m 先」というふうに具体的に話してください。
- ・ 曲がる時は、角度をつけて（直角に）曲がってください。

いすへの案内

- ・ 座席へ誘導する時は、目の不自由な人に椅子の背もたれや座面に触れてもらい「いすです。座ってください」と声をかけてください。
- ・ 目の不自由な人は自分で触れることにより、座席の位置、向き・高さ・どんな椅子などが理解し安くなります。



階段や段差

- ・ 階段や段差では、段に対して常に直角に上がって（下がって）ください。
- ・ 目の不自由な方につま先か白杖で最初の段を確かめてもらい、手引き者が先に立って上り下りします。

※西淀川区“福祉教育マニュアル”作成検討委員会：子ども・保護者・先生と考える“ふくしのはなし”平成22年度版より

■盲導犬

- ・盲導犬とは、視覚障害者が安全に快適に歩けるよう誘導する犬です。
- ・2003年に「身体障害者補助犬法」が設置され、公共施設や交通機関は、盲導犬をはじめとする身体障害者補助犬の同伴を拒んではならないこととなりました。
- ・盲導犬を育成している団体数は9団体あります。日本国内で盲導犬を使っている人は約1000人です（視覚障害者数は全国で31万人です）。



盲導犬には

- 声をかけない
- さわらない
- 食べ物を与えない
- ハーネス（胴輪）にさわらない

■白杖の役割

① 知らせる

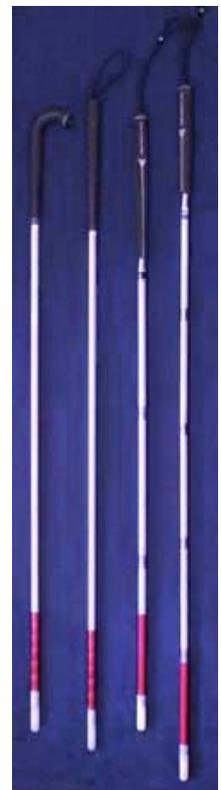
- ・目の不自由な人の存在を周囲に知らせます。
- ・人込みの中を歩きやすくなったり、困った時に援助を受けることができます。

② 身を守る

- ・障害物や危険から身を守る。

③ 情報を得る

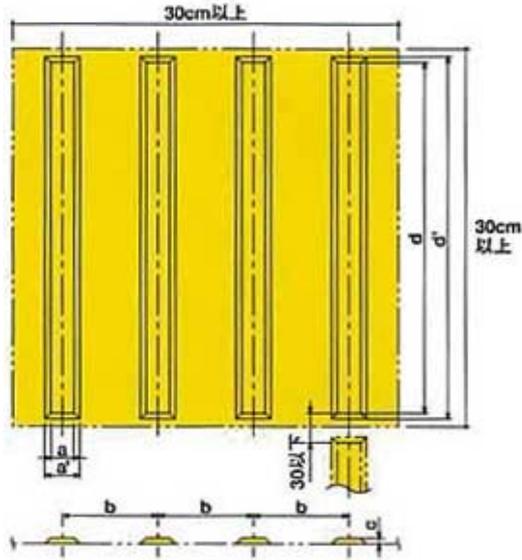
- ・階段などのさまざまな情報を音と触覚により得る。



※西淀川区「福祉教育マニュアル」作成検討委員会：子ども・保護者・先生と考える“ふくしのはなし”平成22年度版より

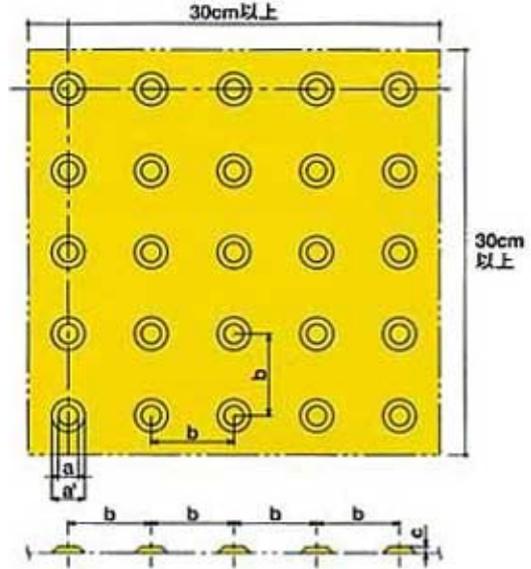
■視覚障害者誘導用ブロック

線状ブロック（誘導ブロック）



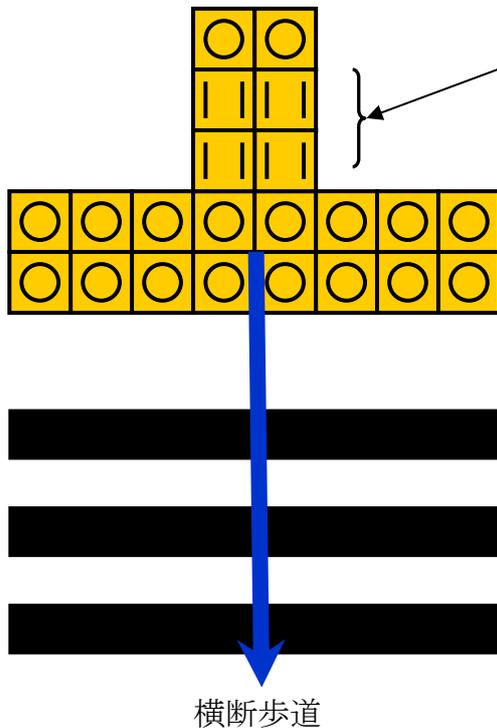
- ・方向を示します。

点状ブロック（警告ブロック）



- ・注意すべき位置や誘導対象施設等の位置を示します。

交差点部の設置方法①

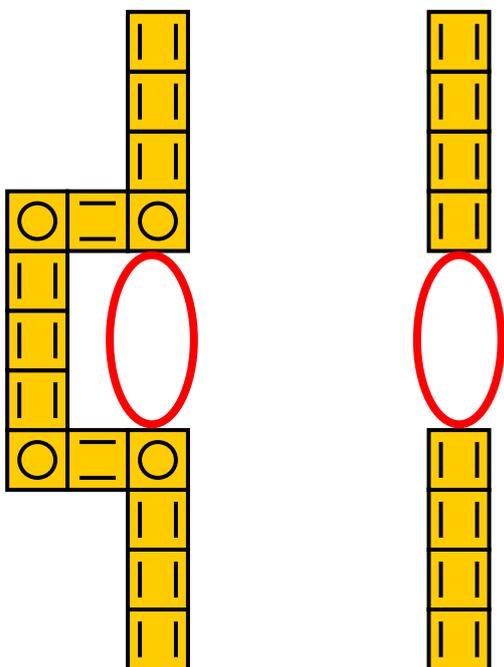


線上ブロックの役割

- ・横断歩道に導きます。
- ・横断歩道上の歩行方向を示します。
- ・横断歩道の中心部を示します
- ・誤って敷設すると視覚障害者は間違った方向に歩き、車道から出られなくなり、事故に遭う可能性が高くなります。

交差点部の設置方法②

悪い例



誘導ブロックは

- ・途切れないように。
- ・最短距離で

設置します。

視覚障害者誘導用ブロックの色彩

- ・誘導用ブロックは、黄色が基本です。
- ・路面の色彩が類似している場合、周囲の路面との輝度比を 2.0 程度確保することにより、容易に識別できることが必要です。
- ・ただし、天候・明るさ・色の組み合わせ等によって認識しづらい場合も想定されるため、沿道住民・利用者の意見が反映されるよう留意する必要があります。



